

## ▲ 学術トピックス ▼

### プラセボ対照二重盲検試験で炎症軽減作用を確認 ザンゴジャパン

㈱ザンゴ ジャパンは、マンゴスチン全果を用いたジュースと、トンカット・アリ根エキス、シトラス果皮エキス、茶葉エキス、Lテアニンのハーブブレンドの相乗効果を検証した。

試験は、適度なストレス状態にある30人の男女を対象に、プラセボ対照二重盲検法で実施した。被験者をランダムに分け、それぞれ6オンスのジュースまたは

プラセボ、2錠のハーブブレンドまたはプラセボを摂取してもらった。その結果、炎症（C反応性プロテインにおいて59%減）、炎症バランス（FAI/コルチゾール比421%増）、「VIGAR」（27%増）、緊張（27%減）において顕著な違いが確認された。これらの結果から、この2種類を組み合わせて4週間摂取することで、代謝を幅広くサポートすることがわかった。

### ヒト好中球、赤血球、ラット腹腔マクロファージのフリーラジカル産生に バイオ・ノーマライザー（食品サプリメント）が及ぼす効果

大里研究所、ロシア小児血液学研究所

【研究意図】 バイオノーマライザーの治療効果のメカニズムを理解するために、我々は、無細胞系（フェントン反応、キサンチン-キサンチンオキシダーゼ系、および過酸化水素ハイポクロライドまたは過酸化水素-西洋ワサビペルオキシダーゼシステム）とヒトの血液の好中球と赤血球における活性酸素種やラット腹腔マクロファージの産生に与える作用により研究した。

【結果】 バイオノーマライザーは鉄イオン、スーパーオキシド駆動フェントン反応の触媒を不活性化することにより、反応性ヒドロキシルラジカルの形成を減少させると同時に、無害なスーパーオキシドイオンの細胞内産生を高めるとすることができることを示唆している。また、生物のレベルの正常化がバイオノーマライザーの活性の分子機構の一つであることを提案する。